

都市再生整備計画 事後評価シート
小谷地区

平成30年2月

長野県小谷村

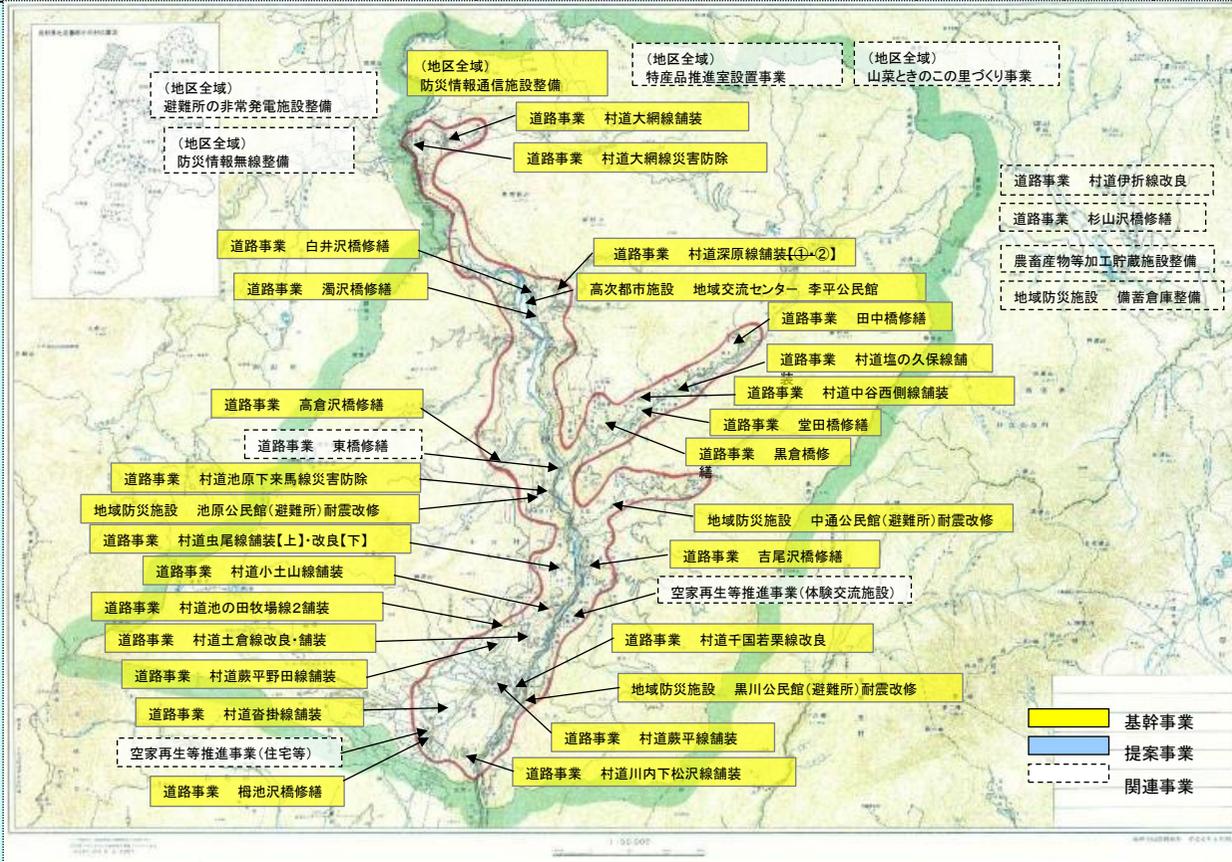
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長野県	市町村名	小谷村	地区名	小谷地区			面積	3200 ha			
交付期間	平成24年度～平成28年度	事後評価実施時期	平成29年度	交付対象事業費	543百万円	国費率	0.358					
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	・道路(土倉線、川内下松沢線、沓掛線、池原下馬線、伊折線、小土山線、中谷西側線、塩の久保線、虫尾線、大網線、伊折線(杉山沢橋)、桐池スキー場南線(桐池沢橋)、大久保線(吉尾沢橋)、池原下馬線(高倉沢橋)、李平線(濁沢橋)、清水山線(堂田橋)、田中線(田中橋)、中谷西側線(黒倉橋)、李平線(白井沢橋) ・地域生活基盤施設(地域防災施設:備蓄倉庫整備、避難所耐震改修(中道基幹センター)、防災情報通信施設)									
		提案事業	・小水力発電施設整備 ・地場産業の振興(農畜産物等加工貯蔵施設)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	・道路(伊折線、伊折線(杉山沢橋)、深原線【①】) ・地域生活基盤施設(備蓄倉庫整備)		削除/追加の理由 村道伊折線、伊折線(杉山沢橋)は、県代行業事で実施となり計画から削除。深原線は現地再確認し2区間のうち1区間の早急性がないことから削除。地域生活基盤施設(備蓄倉庫)は、予定箇所が国道改良工事にあたることから削除となった。			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 村道伊折線の関係は事業実施主体が変更となるため目標、指標とも据え置く。深原線は必要区間の整備は完了したため影響なし。備蓄倉庫は別事業(小谷村総合戦略事業)として実施のため据え置く。				
		提案事業	・小水力発電施設整備 ・地場産業の振興(農畜産物等加工貯蔵施設)		小水力発電設備は予定箇所が国道の改良工事にあたることから削除。地場産業の振興(農畜産物加工貯蔵施設)は、農水省補助事業での実施となり削除。			小水力発電は電源の確保はできており問題ないため指標への影響はなし。加工貯蔵施設は別事業で実施中。指標への直接的影響はなし。				
	新たに追加した事業	基幹事業	・道路(土倉線【大別当】、村道池の田牧場線2、村道藤平野田線、村道藤平線、村道千国若栗線、村道虫尾線【下】、深原線【①・②】) ・地域生活基盤施設(避難所耐震改修(池原公民館・黒川公民館)) ・高次都市施設(李平公民館)		地区内の道路交通の利便性向上を図るため、道路事業の路線を追加。			安心度に対してプラスの影響が見込まれるが、目標、指標ともに据え置く。				
		提案事業										
交付期間の変更	当初	平成24年度～平成28年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
	変更	-										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
	指標1	安心度	点	6.4	H23	7.4	H28		6.9	△	あり	フォワードは無作為抽出のため、数値への反映は変動が否めないが、概ね7割の安心度が得られていると考えられる。今後は村単事業などで地区ごとに自主防災組織の設置を促進するなど、具体的な活動を行い安心度向上に努める。
										なし ●		
	指標2	指定避難場所の整備率	%	92.8	H23	100.0	H28		100.0	○	あり	
										なし		
指標3	一時避難所の整備率	%	93.5	H25	100.0	H28		100.0	○	あり	整備率は100%となった。	
										なし		
指標4	イベント参加者数	延人	94	H23	300	H28		178	△	あり	伊折地区が震災の関係で水路が壊れ、H27年度以降、棚田オーナー制度が実施できていないため、見方を変え単に人数ではなく伸び率を測定した結果、当初目標の3倍に満たないものの2.7倍は許容範囲内を考えられる。	
										なし ●		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
	その他の数値指標1											
その他の数値指標2												
4) 定性的な効果発現状況												
5) 実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	住民参加プロセス	第1期計画のような大きなプロジェクトがなく、地区説明会や集落要望ヒヤリングなどの意見を反映させた。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後も施設の活用方法等について、関係地区と連携をとって実施していく。			
持続的なまちづくり体制の構築	参考:当事業により整備(第1期)した観光交流センターを活用し、都市住民等と地域住民の交流が生まれた。また、地域の中でも伝統文化や食文化の継承等の地域おこし活動が活発化した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				参考(今後も観光交流センターの利用簿や講習会の開催状況等を把握し、必要な支援を行っていく。)				

様式2-2 地区の概要

小谷地区(長野県小谷村) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
防災計画に位置付けられる一時避難所(公民館)の中で、平成7年の豪雨災害時に孤立した3集落の一時避難所の整備と、各集落へのアクセス道路の改修が課題となっているため、住民の安心度と各避難所の整備率を指標とした。 過疎化による人口減少や高齢化により、集落機能の低下が進んでおり、人口増や誘客促進による地域の活性化施策が急務となっているため、地域体験交流を指標とした。	安心度	単位:点	6.4 H23	7.4 H28	6.9 H29
	指定避難所整備率	単位:%	92.8 H23	100.0 H28	100.0 H28
	一時避難所整備率	単位:%	93.5 H25	100.0 H28	100.0 H28
	イベント参加者数	単位:延人	94 H23	300 H28	178 H29



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・急峻な山間地域の広範囲に小さな集落が点在する当地域において、近年多発する台風や地震等、大規模災害を想定した防災対策の充実は引き続き課題となっている。 ・過疎化による人口減少や高齢化により、集落機能の低下が進んでおり、人口増や誘客促進による地域の活性化施策が急務となっている。 ・景気やニーズの変化により、村の主産業である観光業が低迷しており、新たな観光メニュー等の創出等、一層の観光誘客促進が必要となっている。 ・防災計画に位置付けられる一時避難所(公民館)の中で、平成7年の豪雨災害時に孤立した3集落の一時避難所の整備と、各集落へのアクセス道路の改修が課題となっている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・一時避難所整備、指定避難所の耐震改修がほぼ完了したが、未回収施設の整備を進めることでさらなる向上を図る。また、道路整備などを継続して行う。 ・過疎化が進み、高齢化や人口の減少により地域の活性化施策が急務となっている。整備した施設の有効活用や、空家等の有効活用、地場産業の振興等、一体的な取り組みにより、都市との交流等による誘客を促進していく。 ・サイクルツーリズムや外国人観光客の誘客など、新たな方面への取り組みを行っており、今後の充実が求められる。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

~~添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測~~

~~添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況~~

(2) 実施過程の評価

~~添付様式3-① モニタリングの実施状況~~

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

添付様式5-② まちの課題の変化

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

~~添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)~~

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●			第2回変更時(平成26年3月)に 避難所の整備率(災害時における一時避難所整備率)を追加	地域防災計画の見直し(H25.6地域防災計画原案作成)を行う中で、平成7年の豪雨災害時に孤立した3集落の一時避難所について整備が必要となった。 平成7年の豪雨災害時には、指定避難所まで自力移動出来ない高齢者は、各集落の一時避難所までしか避難が出来ない状態であった。近年では歩行補助機の利用する高齢者も増加し、孤立する可能性の高い3集落の一時避難所の整備が必要となったため。
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	村道 土倉線(泥崎)	32	道路改良 L=100m					●	
道路	村道 土倉線(大別当)			18	舗装修繕 L=800m	路面の損傷が激しいため、舗装を行い住民が安心して通行できるよう事業追加。	事業の追加は目標達成にプラスの影響はあるが、目標及び指標は据え置く。	●	
道路	村道 川内下松沢線	15	舗装修繕 L=1,000m					●	
道路	村道 沓掛線	28	表層改良 L=600m	23	表層改良 L=570m	事業完了による延長の確定	事業内容に変更は無いため、目標及び指標への影響は無し。	●	
道路	村道 池原下来馬線	7	災害防除(落石防 止) L=50m					●	
道路	村道 伊折線	32	道路改良 L=50m	-	-	(県代行業事で実施)	別途事業による実施のため、目標及び指標は据え置く。	-	
道路	村道 伊折線(杉山沢橋)	6	杉山沢橋 L=4.4m	-	-	(県代行業事で実施)	別途事業による実施のため、目標及び指標は据え置く。	-	
道路	村道 小土山線	16	舗装修繕 L=1,000m	16	舗装修繕 L=585m	事業完了による延長の確定	事業内容に変更は無いため、目標及び指標への影響は無し。	●	
道路	村道 中谷西側線	15	舗装修繕 L=1,000m	14		事業完了による事業費確定	事業内容に変更は無いため、目標及び指標への影響は無し。	●	
道路	村道 塩の久保線	7	舗装修繕 L=500m	7		事業完了による事業費確定	事業内容に変更は無いため、目標及び指標への影響は無し。	●	
道路	村道 虫尾線(上)	15	舗装修繕 L=800m	11	舗装修繕 L=500m	一部を改良事業に変更したため、延長を減。	事業の追加は目標達成にプラスの影響はあるが、目標及び指標は据え置く。	●	
道路	村道 虫尾線(下)			28	道路改良 L=150m	S字カーブの幅員が狭く路肩等の損傷が激しい。集落へ通じるメイン道路であり改良を行う。	事業の追加は目標達成にプラスの影響はあるが、目標及び指標は据え置く。	●	
道路	村道 大網線	15	舗装修繕 L=500m	11	舗装修繕 L=300m	事業完了による延長、事業費の確定	事業内容に変更は無いため、目標及び指標への影響は無し。	●	
道路	村道 大網線	10	災害防除(落石防 止) L=100m	8	災害防除(落石防 止) L=50m	事業完了による延長、事業費の確定	事業内容に変更は無いため、目標及び指標への影響は無し。	●	
道路	村道 池の田牧場線2			31	舗装修繕 L=1,200m	路面の損傷が激しいため、舗装を行い住民が安心して通行できるよう事業追加。	事業の追加は目標達成にプラスの影響はあるが、目標及び指標は据え置く。	●	
道路	村道 蕨平野田線			20	舗装修繕 L=500m	路面の損傷が激しいため、舗装を行い住民が安心して通行できるよう事業追加。	事業の追加は目標達成にプラスの影響はあるが、目標及び指標は据え置く。	●	
道路	村道 蕨平線			21	舗装修繕 L=700m	路面の損傷が激しいため、舗装を行い住民が安心して通行できるよう事業追加。	事業の追加は目標達成にプラスの影響はあるが、目標及び指標は据え置く。	●	

道路	村道 深原線②			9	舗装修繕 L=600m	路面の損傷が激しいため、舗装を行い住民が安心して通行できるよう事業追加。	事業の追加は目標達成にプラスの影響はあるが、目標及び指標は据え置く。	●	
道路	村道 千国若栗線			11	道路改良 L=110m	路面の損傷が激しいため、舗装を行い住民が安心して通行できるよう事業追加。	事業の追加は目標達成にプラスの影響はあるが、目標及び指標は据え置く。	●	
道路	村道 柵池スキー場南線(柵池沢橋)	5	柵池沢橋 L=4.7m					●	
道路	村道 大久保線(吉尾沢橋)	6	吉尾沢橋 L=11.0m	5		事業完了による事業費確定	事業内容に変更は無いため、目標及び指標への影響は無し。	●	
道路	村道 池原下来馬線(高倉沢橋)	30	高倉沢橋 L=13.4m	13		工法の変更による事業費減	事業内容に変更は無いため、目標及び指標への影響は無し。	●	
道路	村道 李平線(濁沢橋)	23	濁沢橋 L=17.9m	13		事業完了による事業費確定	事業内容に変更は無いため、目標及び指標への影響は無し。	●	
道路	村道 清水山線(堂田橋)	23	堂田橋 L=63.0m	29		事業完了による事業費確定	事業内容に変更は無いため、目標及び指標への影響は無し。	●	
道路	村道 田中線(田中橋)	4	田中橋 L=6.5m	6		事業完了による事業費確定	事業内容に変更は無いため、目標及び指標への影響は無し。	●	
道路	村道 中谷西側線(黒倉橋)	71	黒倉橋 L=50.0m					●	
道路	村道 李平線(白井沢橋)	6	白井沢橋 L=11.5m	7		事業完了による事業費確定	事業内容に変更は無いため、目標及び指標への影響は無し。	●	
地域生活基盤施設	地域防災施設(中通公民館)	25	1棟	23		事業完了による事業費確定	事業内容に変更は無いため、目標及び指標への影響は無し。	●	
地域生活基盤施設	地域防災施設(備蓄倉庫)	15	1棟	-	-	予定場所が国道改良にあたり事業から削除	別途事業による実施のため、目標及び指標は据え置く。	-	
地域生活基盤施設	地域防災施設(情報通信施設)	15	一式	14		事業完了による事業費確定	事業内容に変更は無いため、目標及び指標への影響は無し。	●	
地域生活基盤施設	地域防災施設(池原公民館)			13		防災計画の見直しにより事業追加	事業の追加は目標達成にプラスの影響はあるが、目標及び指標は据え置く。	●	
地域生活基盤施設	地域防災施設(黒川公民館)			19		防災計画の見直しにより事業追加	事業の追加は目標達成にプラスの影響はあるが、目標及び指標は据え置く。	●	
高次都市施設	地域交流センター(李平公民館)			28		防災計画の見直しにより事業追加	事業の追加は目標達成にプラスの影響はあるが、目標及び指標は据え置く。	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	農畜産物等加工貯蔵施設	145	地場産業の振興を図るため、農畜産物の加工及び貯蔵をするための施設を整備し、通年を通じた特産品の販売・提供を行うための基盤とする。	-	-	農水省事業による実施のため計画から削除	別途事業による実施のため、目標及び指標は据え置く。	-	
	小水力発電施設整備	15	地域に存するクリーンエネルギーの有効活用を行い、公共施設等の電力や非常用電源として活用する。			予定場所が国道改良にあたり事業から削除	電源に新エネルギーを活用する提案であり、通常の電源は確保できていることから、目標及び指標への影響はないと考えられる。	-	
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
防災情報無線整備		小谷地区	100		23-24		24 整備完了	
避難所の非常用発電機整備		小谷地区	25		24		24 整備完了	
山菜ときのこの里づくり事業		小谷地区	11		23-27	27-31	進行中	小谷村総合戦略事業
特産品推進室設置事業		小谷地区	71		23-27		28 特産推進室 設置	
空き家再生等推進事業(体験交流施設・住宅等)		小谷地区	160		24-25		25 活動開始	
道路		村道 川尻線(東橋)	45		24-25	24-28	28 竣工	
道路		村道 伊折線		-		28~	他事業で実施	県代行事業
道路		村道 伊折線(杉山沢橋)		-		28~	〃	県代行事業
地域生活基盤		備蓄倉庫		-		28~	庶務係 場所の検討中	小谷村総合戦略事業
農畜産物等加工貯蔵施設		小谷地区		770		28~	農水省事業で実施	小谷村総合戦略事業

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	数値	モニタリング	事後評価	あり	なし
指標1	安心度	点	5	18	6.4	23	7.4	28	モニタリング			モニタリング			○
									事後評価	確定見込み	●	6.9	事後評価	△	
指標2	指定避難所整備率	%	指定避難所を利用できる住民割合		92.8	23	100.0	28	モニタリング			モニタリング			
									事後評価	確定見込み	●	100.0	事後評価	○	
指標3	一時避難所整備率	%	7災時の孤立3集落の一時避難所(公民館)整備率		93.5	25	100.0	28	モニタリング			モニタリング			
									事後評価	確定見込み	●	100.0	事後評価	○	
指標4	イベント参加者数	延人	柵田オーナー来村者数		94	23	300	28	モニタリング			モニタリング			○
									事後評価	確定見込み	●	178	事後評価	△	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	住民の安心度は向上が見られたが、目標値を下回った。今後、備蓄庫の整備等の実施、県代行事業の進捗により安心度の向上が図られると考えられる。	
指標2	耐震化した避難所を利用する住民の割合が目標値に達した。	
指標3	一時避難所の整備率が目標値に達した。	
指標4	イベントの参加者数を、都市部との交流が分かりやすい柵田オーナーに関連する来村者数としたが、H26神城断層地震の影響で伊折地区の水路復旧ができず、数値に影響がでた。しかしながら、この影響を考慮しても当初の目標数値には届かないことが想定される。	指標を柵田オーナーに設定したことが適切であったかという課題はある。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価	事後評価		
その他の 数値指標1			-	-			モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

--

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
(地区連絡員会議) (地区説明会) (集落要望ヒヤリング)	予定どおり実施した	<p>(第1期計画では旧小学校跡地利用の計画があり、住民懇談会等のニーズを反映したが、第2期計画は、道路が主となっている。 学校跡地利用のような大きな事業がないため、村で毎年5月に行っている地区連絡員会議、6から7月に行う地区説明会、10月に行う集落要望ヒヤリングで、村の当年度事業の概要等を説明しており、地区からの意見集約を行っている。道路補修について各地区から意見が寄せられており、今回、間接的ではあるがそうした意見を基に要望が所の整備に繋がっている。)</p>	<p>集落要望ヒヤリング、地区担当説明会は毎年実施しており、今後も継続していく予定。意見は事業こそ違っても、整備に反映させていく。</p>
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
(都市部住民と地域住民の交流)	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した	● 参考(中谷雪まつり)	参考(中谷雪まつり実行委員会)	参考(交流は今後も継続していく)
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
まちづくり検討チーム	副村長、総務課長、住民福祉課長、建設水道課長、観光振興課長、特産品推進室長、会計管理者	平成29年11月22日(水)	総務課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標②		指標③					
指標名		指定避難所整備率		一時避難所整備率					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路 土倉線(泥崎)	-	耐震化が完了した指定避難所を利用できる住民の割合は100%に達した。	-	H7災で孤立した3集落の公民館の耐震改修が完了し、整備率が100%に達した。	-		-	
	道路 土倉線(大別当)	-		-					
	道路 川内下松沢線	-		-					
	道路 沓掛線	-		-		-			
	道路 池原下馬線	-		◎		-			
	道路 小土山線	-		-		-			
	道路 中谷西側線	-		-		-			
	道路 塩の久保線	-		-		-			
	道路 虫尾線(上)	-		-		-			
	道路 虫尾線(下)	-		-		-			
	道路 大網線	-		-		-			
	道路 大網線	-		-		-			
	道路 池の田牧場線2	-		-		-			
	道路 蕨平野田線	-		-		-			
	道路 蕨平線	-		-		-			
	道路 深原線②	-		○		-			
	道路 千国若栗線	-		-		-			
	道路 梅池スキー場南線(梅池沢橋)	-		-		-			
	道路 大久保線(吉尾沢橋)	-		-		-			
	道路 池原下馬線(高倉沢橋)	-		-		-			
	道路 李平線(濁沢橋)	-		◎		-			
	道路 清水山線(堂田橋)	-		-		-			
	道路 田中線(田中橋)	-		-		-			
	道路 中谷西側線(黒倉橋)	-		-		-			
	道路 李平線(白井沢橋)	-		◎		-			
	地域生活基盤施設 地域防災施設(中道公民館)	◎		-		-			
	地域生活基盤施設 地域防災施設(備蓄倉庫)	-		-		-			
	地域生活基盤施設 地域防災施設(情報通信施設)	-		-		-			
	地域生活基盤施設 地域防災施設(池原公民館)	-		◎		-			
	地域生活基盤施設 地域防災施設(黒川公民館)	-		◎		-			
高次都市施設 地域交流センター(李平公民館)	-	◎	-						
提案事業		-	-	-	-	-	-	-	-
関連事業	防災情報無線整備	○	-	○	-	-	-	-	-
	避難所の非常用発電機整備	○	-	○	-	-	-	-	-
	山菜ときのこの里づくり事業	-	-	-	-	-	-	-	-
	特産品推進室設置事業	-	-	-	-	-	-	-	-
	空き家再生等推進事業(体験交流施設・住宅等)	-	-	-	-	-	-	-	-
	道路	-	-	-	-	-	-	-	-
	道路	-	-	-	-	-	-	-	-
道路	-	-	-	-	-	-	-	-	
地域生活基盤	-	-	-	-	-	-	-	-	
農畜産物加工貯蔵施設	-	-	-	-	-	-	-	-	

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も地区要望と併せて、維持管理、場合により改修を継続することで、住民の安心・安全を確保するよう努める。	今後も地区要望と併せて、維持管理、場合により改修を継続することで、住民の安心・安全を確保するよう努める。		
-------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標①			指標④					
指標名		安心度			イベント参加者数					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路 土倉線(泥崎)	-	各公民館の整備と、道路改良により拡幅等が完了したことで、目標値には至らなかったが、第1期計画時よりは安心度が向上したことは評価できる。	IV	-	-	III	-	-	-
	道路 土倉線(大別当)	△								
	道路 川内下松沢線	-								
	道路 香掛線	-								
	道路 池原下来馬線	-								
	道路 小土山線	-								
	道路 中谷西側線	-								
	道路 塩の久保線	-								
	道路 虫尾線(上)	-								
	道路 虫尾線(下)	△								
	道路 大綱線	-								
	道路 大綱線	-								
	道路 池の田牧場線2	△								
	道路 蕨平野田線	△								
	道路 蕨平線	△								
	道路 深原線②	△								
	道路 千国若菜線	△								
	道路 褥池スキー場南線(褥池沢橋)	-								
	道路 大久保線(吉尾沢橋)	-								
	道路 池原下来馬線(高倉沢橋)	-								
	道路 李平線(潮沢橋)	-								
	道路 清水山線(堂田橋)	-								
	道路 田中線(田中橋)	-								
	道路 中谷西側線(黒倉橋)	-								
	道路 李平線(白井沢橋)	-								
	地域生活基盤施設 地域防災施設(中道公民館)	△								
地域生活基盤施設 地域防災施設(備蓄倉庫)	-									
地域生活基盤施設 地域防災施設(情報通信施設)	-									
地域生活基盤施設 地域防災施設(池原公民館)	△									
地域生活基盤施設 地域防災施設(黒川公民館)	△									
高次都市施設 地域交流センター(李平公民館)	△									
提案事業		-			-			-		
提案事業	防災情報無線整備	△			-			-		
	避難所の非常用発電機整備	△			-			-		
	山菜ときのこの里づくり事業	-			-			-		
	特産品推進室設置事業	-			△			-		
	空き家再生等推進事業(体験交流施設・住宅等)	-			-			-		
	道路	-			-			-		
	道路	-			-			-		
道路	-			-			-			
地域生活基盤	-			-			-			
農畜産物加工貯蔵施設	-			-			-			

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたとと思われる。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	県代行により本計画から削除した村道伊折線、村道伊折線(杉山沢橋)や備蓄倉庫の建設により、今後の安心度は向上することが予想される。村が行う事業の実施は早急に行うよう努めたい。	今後も棚田オーナーは継続していくが、参加者数を増加できる工夫が求められる。
------------------	--	---------------------------------------

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
まちづくり検討チーム	副村長、総務課長、住民福祉課長、建設水道課長、観光振興課長、特産品推進室長、会計管理者	平成29年11月22日(水)	総務課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
・急峻な山間地域の広範囲に小さな集落が点在する当地域において、近年多発する台風や地震等、大規模災害を想定した防災対策の充実が課題となっている。	指定避難所の耐震改修が完了し、また、道路改良や舗装整備も進んだ。関連事業で整備された無線設備も完了した。		
・過疎化による人口減少や高齢化により、集落機能の低下が進んでおり、人口増や誘客促進による地域の活性化施策が急務となっている。	過疎化による人口減少や高齢化は、本計画だけでは解決が難しい課題である。それでも避難所の整備や道路舗装修繕など、生活基盤として最小限の整備はできた。特産推進室が設置され、加工貯蔵施設の整備による特産品の充実、雇用の創出が期待される。	人口減少、高齢化防止は過疎地域の当面の課題として残される。 加工貯蔵施設の整備がまだ完了していない。	
・景気やニーズの変化により、村の主産業である観光業が低迷しており、新たな観光メニュー等の創出等、一層の観光誘客促進が必要となっている。	観光のメインであるスキー場へのアクセス道路は、道路改良、舗装修繕ともに完了した。	観光客の減少は、人口減少、高齢化防止とともに小谷村の当面の課題と言える。誘客宣伝は小谷村観光連盟との連携などにより展開をはかる。	
・防災計画に位置付けられる一時避難所(公民館)の中で、平成7年の豪雨災害時に孤立した3集落の一時避難所の整備と、各集落へのアクセス道路の改修が課題となっている。	池原、黒川、李平の公民館耐震改修が完了し、集落へのアクセス道路舗装修繕、橋の改修とも完了した。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	防災対策の充実	過去の経験から、大災害時には孤立集落が出ることが想定されるため、そのような事態を想定した防災対策を推進していく。	・避難所における非常時備品等の充実 ・定期的な消防機器の保守、更新
	人口増施策による地域の活性化	整備した観光交流センター等の有効活用が図られるよう、ソフト事業の充実等による一体的な取り組みを行い、地域の活性化を図っていく。	・おたりのわによる情報発信、移住定住の各施策の継続、地域の語り合い事業、雪まつりなどの継続、ファンミーティングの実施など。
	都市住民と地域住民の交流	第1期計画により、旧小学校跡地として整備した施設については、観光誘客や健康増進施策等との連携により、ソフト事業を組み合わせることで、効果の持続、嵩上げに努める。	

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	人口減少、高齢化防止、地域活性化は過疎地域の当面の課題として残される。加工貯蔵施設の整備がまだ完了していない。	人口減少、高齢化防止は簡単に解決できる問題ではないが、地方創生関連事業などを取り入れ持続的に推進していく。	・小さな拠点構築事業(おたり54プロ)の推進(総合戦略事業) ・加工貯蔵施設の整備(総合戦略事業) ・若者ふれあい事業、交流イベントの実施(総合戦略事業)
観光客の減少は、人口減少、高齢化防止とともに小谷村の当面の課題と言える。誘客宣伝は小谷村観光連盟との連携などにより展開をはかる。	観光客減少も簡単に解消する課題ではないが、ハード面の整備などを行いつつ、情報発信に努める。	・観光DMOの設立(北ア三市村連携) ・柵池自然園木道整備 ・メディア向けシェアオフィスの整備(総合戦略事業) ・サイクルツーリズムの充実 など	

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

- ・本計画により、災害時の拠点となる避難所整備、道路改良や舗装修繕が進められ、安心度の向上が見られたが、防災対策は引き続き充実させる必要がある。
- ・観光誘客や地域の活性化施策に加え、ニーズに則した住宅施策を進め、人口増を図っていく必要がある。
- ・観光誘客を図るうえで、救急医療体制の充実は大きな課題である。ヘリポートの整備や道路整備等を一体的に計画していく必要がある。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	安心度	点	6.4	H23	7.4	H28	確定 ●	6.9	△	あり	●	H30年度中	村単事業の地域の語り合い事業の実施を推進し、自主防災組織の結成等を促進させるなど、目標を持たせることで、安心度を向上させる。	測定の必要はない。
							見込み			なし				
指標2	指定避難所整備率	%	92.8	H23	100.0	H28	確定 ●	100.0	○	あり	●			
							見込み			なし				
指標3	一時避難所整備率	%	93.5	H25	100.0	H28	確定 ●	100.0	○	あり	●			
							見込み			なし				
指標4	イベント参加者数	延人	94	H23	300	H28	確定 ●	178	△	あり	●		伊折水路は復旧に時間を要する見込み。単に人数ではなく、見方を変えて伸び率を計測方法とする。	伸び率は約3倍の設定に対し2.7倍は許容範囲と考えられる。測定の必要なし。
							見込み			なし				
その他の数値指標1							確定							
							見込み							
その他の数値指標2							確定							
							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		実利用者数や整備率等、具体的な数値を指標とする中で、安心度等の感覚的な指標も盛り込んで、達成度を判りやすくする必要があります。
	うまくいかなかった点	安心度や満足度については、施設整備の影響を受ける集落と受けない集落では捉え方が違う。今回は施設整備の影響を受ける集落を想定して目標値を設定したため、計画区域の広範囲で測定した計測方法と整合がとれなかった。また、感覚的な数値を多く指標化したことにより、目標数値の根拠等が不透明となってしまった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	指定避難所、一時避難所の整備率については、避難所の整備がダイレクトに反映することができた。	目標の達成状況が判断しやすい指標を設定する。
	うまくいかなかった点	道路改良、舗装修繕は、総体的にみて整備ができたが、目標数値に直接的に結び付けることが難しかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		地域住民との対話を大切に、ニーズに則した計画を策定していく。
	うまくいかなかった点	第2期計画は、第1期の旧小学校跡地利用など大きな計画がなく、住民参加という点でいえば弱かった点がある。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	村のホームページ	平成30年2月9日 ～平成30年3月2日	平成30年2月9日 ～平成30年3月2日	担当課への郵送、 FAX、電子メール	総務課企画財政係
CATV	CATV文字放送で村のホームページ 及び担当課窓口で原案を公表してい る旨を掲載	平成30年2月9日 ～平成30年3月2日	平成30年2月9日 ～平成30年3月2日		
説明会・ワークショップ					
その他	窓口閲覧	平成30年2月9日 ～平成30年3月2日	平成30年2月9日 ～平成30年3月2日		

住民の意見	特になし				
-------	------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	武生 雅明(東京農業大学 地域創成科学科 教授)	平成30年3月5日(月)	総務課企画財政係	小谷村まちづくり交付金 評価委員会設置要綱	-
その他の委員	高橋 正宏(小谷村議会 総務員長) 石田憲明(小谷村商工会 会長)(欠席) 松澤 秀明(小谷村社会福祉協議会 事務局長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に沿って事後評価が実施されたことが確認された。 指標1:安心度のアンケートについて、実施事業個所を記載したか質問があった。⇒記載していない旨回答し理解を得た。
	成果の評価	・評価結果については了承された。 ・指標3:公民館整備率について、再度説明を求める意見があった。併せて、全ての一時避難所が耐震改修済みか質問があった。⇒当初に設定済のものである旨を説明。45ある一時避難所のうち、H7災で孤立集落の公民館を対象に整備し100%としたことを説明し理解を得た。 ・指標4:イベント参加率について、他のツアーの数値を含めているか質問があった。⇒当初設定どおり、棚田オーナーイベントのみと説明し理解を得た。
	実施過程の評価	・適正であると確認された。
	効果発現要因の整理	・適正であると確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・適正であると確認された。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・適正であると確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・適正であると確認された。
	フォローアップ	・指標1:安心度については、目に見える形を示すことで上昇すると考えられる。村単事業である地域の語り合い事業により、地区ごとの活動を通じて自主防災組織の立ち上げなど具体的な施策を推進することとする。再度のアンケートは必要ないことで確認された。 ・指標4:イベント参加率については、H26年発生の神城断層地震で水路が被災した地区を除き、見方を変えて全体の伸び率で判断することとした。2.7倍は当初計画の約3倍に近いことから許容範囲と思われることから、再度の集計は必要ないことで確認された。
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし	

都市再生整備計画(第3回変更)

おたり
小谷地区

長野県 おたりむら
小谷村

平成28年12月

・様式は、A4印刷とすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	長野県	市町村名	オホリ、小谷村	地区名	オホリ小谷地区	面積	3200 ha
-------	-----	------	---------	-----	---------	----	---------

計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度
------	---------------------	------	---------------------

<p>目標</p> <p>大目標 美しい自然を守り活かし、心やすらぎ笑顔で暮らせる村づくり</p> <p>目標1:安全安心な生活・産業基盤の整備</p> <p>目標2:災害に強い村づくり</p> <p>目標3:地場産業の振興や観光誘客による地域の活性化</p>																																																			
<p>目標設定の根拠</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>当村は、急峻な山間地域に小さな集落が広範囲に点在しており、公共交通機関が少ないことから、移動手段の多くは自家用車に依存している。しかし平成7年に豪雨災害に見舞われ、村内の交通網がずたずたに分断され、多くの孤立集落が発生した。このような事態を想定し道路整備や防災対策を実施しており、平成19年度～平成23年度の都市再生整備計画の中でも、孤立が予想される集落を中心に、通信手段や防災拠点施設の整備を実施してきた。しかし、まだまだ防災拠点施設の耐震化や備蓄庫の整備、通信手段の確保や老朽化した橋梁の整備など課題が多いため、本計画により更に災害に強いむらづくりを推進する。</p> <p>また、近年、全国で頻発する大規模自然災害に対応するため、地域防災計画の見直しを行う中で、孤立する可能性の高い集落の一時避難所の整備が喫緊の課題となった。過疎・高齢化が進む当村では歩行補助機の利用者が増加し、村指定避難所(広域避難所)まで自力移動できない高齢者は、各集落の一時避難所までしか避難が出来ない。よって、平成7年の豪雨災害時に孤立した3集落の一時避難所の整備を早急に行うと共に、各集落の一時避難所まで歩行補助器を利用する高齢者が安全に避難できる環境整備を推進する。</p> <p>過疎化・高齢化が進み、地域の活性化及び人口維持施策が急務となっている。増加する空き建築物を体験施設や交流拠点、住宅等として活用するとともに、農業や地場産業の充実、環境に優しい自然エネルギー等の活用を図ることで、都市との交流に着眼した誘客を進め地域の活性化及び人口維持を図っていく。</p>																																																			
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 急峻な山間地域の広範囲に小さな集落が点在する当地域において、近年多発する台風や地震等、大規模災害を想定した防災対策の充実が課題となっている。 過疎化による人口減少や高齢化により、集落機能の低下が進んでおり、人口増や誘客促進による地域の活性化施策が急務となっている。 景気やニーズの変化により、村の主産業である観光業が低迷しており、新たな観光メニュー等の創出等、一層の観光誘客促進が必要となっている。 防災計画に位置付けられる一時避難所(公民館)の中で、平成7年の豪雨災害時に孤立した3集落の一時避難所の整備と、各集落へのアクセス道路の改修が課題となっている。 																																																			
<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>「大地の恵みを活かし 誰もが住みたい 小谷村」 小谷村第5次総合計画(計画期間:平成23年度～32年度)で掲げた将来像を実現するための施策では、「心やすらぎ笑顔で暮らせる村づくり(インフラ・防災等)」「美しい自然と豊かな資源を守り活かす村づくり(観光・産業振興)」が大きな柱となっている。本都市再生整備計画により、この施策を実現するための基盤整備を図るものである。</p>																																																			
<p>目標を定量化する指標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指 標</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">定 義</th> <th rowspan="2">目標と指標及び目標値の関連性</th> <th>従前値</th> <th>基準年度</th> <th>目標値</th> <th>目標年度</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安心度</td> <td>点</td> <td>10段階表示簡易アンケートによる、住民の防災に対する直感的な安心度。</td> <td>防災施設や道路・橋梁の整備により、住民の直感的な安心度の向上が期待される。</td> <td>6.4</td> <td>23</td> <td>7.4</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>避難場所の整備率</td> <td>%</td> <td>災害時における村指定広域避難所の整備率。</td> <td>広域避難所、備蓄庫の整備により、災害時の収容人数の増加が期待される。</td> <td>92.8</td> <td>23</td> <td>100</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>公民館の整備率</td> <td>%</td> <td>災害時における一時避難所(公民館)の整備率。</td> <td>孤立する可能性が高い一時避難所の整備により、高齢者でも安心な一時緊急避難先が確保できる。</td> <td>93.5</td> <td>25</td> <td>100</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>イベント参加者数</td> <td>延人</td> <td>地域で行う体験交流イベントへの参加者数。</td> <td>体験交流施設の整備や地場産業の振興により、体験交流イベントへの都市等からの参加者数の増加が期待される。</td> <td>94</td> <td>23</td> <td>300</td> <td>28</td> </tr> </tbody> </table>								指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度					安心度	点	10段階表示簡易アンケートによる、住民の防災に対する直感的な安心度。	防災施設や道路・橋梁の整備により、住民の直感的な安心度の向上が期待される。	6.4	23	7.4	28	避難場所の整備率	%	災害時における村指定広域避難所の整備率。	広域避難所、備蓄庫の整備により、災害時の収容人数の増加が期待される。	92.8	23	100	28	公民館の整備率	%	災害時における一時避難所(公民館)の整備率。	孤立する可能性が高い一時避難所の整備により、高齢者でも安心な一時緊急避難先が確保できる。	93.5	25	100	28	イベント参加者数	延人	地域で行う体験交流イベントへの参加者数。	体験交流施設の整備や地場産業の振興により、体験交流イベントへの都市等からの参加者数の増加が期待される。	94	23	300	28
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度																																												
安心度	点	10段階表示簡易アンケートによる、住民の防災に対する直感的な安心度。	防災施設や道路・橋梁の整備により、住民の直感的な安心度の向上が期待される。	6.4	23	7.4	28																																												
避難場所の整備率	%	災害時における村指定広域避難所の整備率。	広域避難所、備蓄庫の整備により、災害時の収容人数の増加が期待される。	92.8	23	100	28																																												
公民館の整備率	%	災害時における一時避難所(公民館)の整備率。	孤立する可能性が高い一時避難所の整備により、高齢者でも安心な一時緊急避難先が確保できる。	93.5	25	100	28																																												
イベント参加者数	延人	地域で行う体験交流イベントへの参加者数。	体験交流施設の整備や地場産業の振興により、体験交流イベントへの都市等からの参加者数の増加が期待される。	94	23	300	28																																												

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・村道や橋梁等のライフライン整備により、快適・安全な生活・産業の基盤を築きます。</p>	<p>【基幹事業】 ・道路(土倉線【泥崎】、土倉線【大別当】、川内下松沢線、沓掛線、池原下来馬線、小土山線、中谷西側線、塩の久保線、虫尾線【上】、虫尾線【下】、大網線、池の田牧場線2、蕨平野田線、蕨平線、千国若栗線、深原線【②】、梶池スキー場南線(梶池沢橋)、大久保線(吉沢橋)、池原下来馬線(高倉沢橋)、李平線(濁沢橋)、清水山線(堂田橋)、田中線(田中橋)、中谷西側線(黒倉橋)、李平線(白井沢橋)) 【関連事業】 ・道路(川尻線(東橋)) ・道路(伊折線) 道路(伊折線(杉山沢橋))</p>
<p>・防災関連施設の充実を図り、災害に強い村を築きます。</p>	<p>【基幹事業】 ・道路 梶池スキー場南線(梶池沢橋)、大久保線(吉沢橋)、池原下来馬線(高倉沢橋)、李平線(濁沢橋)、清水山線(堂田橋)、田中線(田中橋)、中谷西側線(黒倉橋)、李平線(白井沢橋)) ・地域生活基盤施設(地域防災施設:避難所耐震改修(中通・池原・黒川)、防災情報通信施設) ・地域交流センター(李平公民館) 【関連事業】 ・空家再生等推進事業(体験交流施設・住宅等) ・道路(村道川尻線(東橋))・道路(伊折線(杉山沢橋))</p>
<p>・地場産業の振興や都市との交流等による誘客力の向上を図り、地域の活性化及び人口維持を目指します。</p>	<p>【基幹事業】 ・道路(伊折線、中谷西側線、村道池の田牧場線2、村道蕨平野田線、村道蕨平線、村道千国若栗線、清水山線(堂田橋)、中谷西側線(黒倉橋)) 【関連事業】 ・山菜ときのこの里づくり事業 ・特産品推進室設置事業 ・空家再生等推進事業(体験交流施設・住宅等) ・農産物等加工貯蔵施設</p>
<p>その他</p> <p>○当該計画と整合・連携を図り推進していく主な計画 ・小谷村第5次総合計画(平成23～32年度) ※10年後の村の将来像として「大地の恵みを活かし 誰もが住みたい 小谷村」を掲げ、これを実現するための基本計画において「村内交通網の整備」「防災対策の強化」「地場産業の振興」等を位置づけている。 ・小谷村過疎地域自立促進計画(平成22～27年度) ※過疎対策として、当計画の中で道路・橋梁整備や地場産業の振興等による地域活性化施策、新エネルギーの利活用検討を掲げている。</p> <p>○特産品推進室の設置 ・農業や地場産業の振興、空き家の利活用等、総合的な地域振興を図るため、特産品推進室を設置することを見据え、平成23年度に準備室を開設した(H24年度から特産推進室)。</p>	

<交付対象事業等一覧表>

交付対象事業費	543	交付限度額	217.2	国費率	0.4
---------	-----	-------	-------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

基幹事業	事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象 事業費	費用便益比 B/C
							開始年度	終了年度	開始年度	終了年度						
道路			村道土倉線(泥崎)	小谷村	直	L=100m	H27	H28	H27	H28	32	32	32	32	32	—
道路			村道川内下松沢線	小谷村	直	L=1000m	H26	H27	H26	H27	30	30	30	30	30	—
道路			村道登森線	小谷村	直	L=570m	H24	H24	H24	H24	23	23	23	23	23	—
道路			村道池原下馬線	小谷村	直	L=58m	H24	H24	H24	H24	7	7	7	7	7	—
道路			村道小土山線	小谷村	直	L=98m	H24	H24	H24	H24	16	16	16	16	16	—
道路			村道中谷西側線	小谷村	直	L=1000m	H25	H25	H25	H25	14	14	14	14	14	—
道路			村道塩の久保線	小谷村	直	L=500m	H26	H26	H26	H26	7	7	7	7	7	—
道路			村道虫尾線(上)	小谷村	直	L=130m	H28	H28	H28	H28	11	11	11	11	11	—
道路			村道大網線	小谷村	直	L=300m	H28	H28	H28	H28	11	11	11	11	11	—
道路			村道土倉線(大別当)	小谷村	直	L=50m	H25	H25	H25	H25	8	8	8	8	8	—
道路			村道池の田牧場線2	小谷村	直	L=800m	H28	H28	H28	H28	18	18	18	18	18	—
道路			村道蔵平野田線	小谷村	直	L=1200m	H26	H26	H26	H26	31	31	31	31	31	—
道路			村道蔵平野田線	小谷村	直	L=500m	H27	H27	H27	H27	20	20	20	20	20	—
道路			村道蔵平線	小谷村	直	L=700m	H28	H28	H28	H28	21	21	21	21	21	—
道路			村道蔵深原線(2)	小谷村	直	L=600m	H27	H27	H27	H27	9	9	9	9	9	—
道路			村道千国若葉線	小谷村	直	L=110m	H27	H27	H28	H28	20	11	11	11	11	—
道路			村道虫尾線(下)	小谷村	直	L=150m	H26	H26	H26	H26	28	28	28	28	28	—
道路			村道池原下馬線(高倉沢橋)	小谷村	直	L=4.7m	H24	H25	H24	H25	5	5	5	5	5	—
道路			村道大久保線(吉尾沢橋)	小谷村	直	L=11m	H24	H25	H24	H25	5	5	5	5	5	—
道路			村道池原下馬線(高倉沢橋)	小谷村	直	L=13.4m	H27	H28	H27	H28	13	13	13	13	13	—
道路			村道李平線(濁沢橋)	小谷村	直	L=17.9m	H24	H25	H24	H25	13	13	13	13	13	—
道路			村道清水山線(堂田橋)	小谷村	直	L=63m	H25	H26	H25	H26	29	29	29	29	29	—
道路			村道田中線(田中橋)	小谷村	直	L=6.5m	H24	H25	H24	H25	6	6	6	6	6	—
道路			村道中谷西側線(黒倉橋)	小谷村	直	L=50m	H26	H27	H26	H27	71	71	71	71	71	—
道路			村道李平線(白井沢橋)	小谷村	直	L=11.5m	H24	H25	H24	H25	7	7	7	7	7	—
公園																
古都保存・緑地保全等事業																
地域生活基盤施設			地域防災施設(中道)	小谷村	直	—	H24	H24	H24	H24	23	23	23	23	23	—
地域生活基盤施設			地域防災施設(池原)	小谷村	直	—	H26	H26	H26	H26	13	13	13	13	13	—
地域生活基盤施設			地域防災施設(黒川)	小谷村	直	—	H26	H27	H26	H27	19	19	19	19	19	—
地域生活基盤施設			情報通信施設	小谷村	直	—	H24	H24	H24	H24	14	14	14	14	14	—
高次都市施設			地域交流センター(李平)	小谷村	直	—	H27	H27	H27	H27	28	28	28	28	28	—
バリアフリー環境整備事業																
優良建築物等整備事業																
住宅市街地			拠点開発型													
総合整備			沿道等整備型													
事業			密集住宅市街地整備型													
事業			耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業																
住宅地区改良事業等																
都心共同住宅供給事業																
公営住宅等整備																
都市再生住宅等整備																
防災街区整備事業																
合計										552	543	543	0	543	—	…A

提案事業(線状地区の場合のみ記載)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象 事業費		
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度							
地域創造																
支援事業																
事業活用調査																
まちづくり活動推進事業																
合計										0	0	0	0	0	0	…B

合計(A+B) 543

(参考)関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いずれかに○)			事業期間		全体事業費						
					直轄	補助	地方単独	民間	開始年度		終了年度					
防災情報無線整備	小谷地区	長野県	農林水産省	一式		○			23	24	100					
避難所の非常用発電機整備	小谷地区	小谷村		一式			○		24	24	25					
山菜ときのこの里づくり事業	小谷地区	小谷村		一式			○		23	27	11					
特産品推進室設置事業	小谷地区	小谷村		一式			○		23	27	71					
空家再生等推進事業(体験交流施設・住宅等)	小谷地区	小谷村	国土交通省	4棟		○			24	25	160					
道路	村道川尻線(東橋)	小谷村	国土交通省	L=74m		○			24	25	45					
道路	村道伊折線	長野県	県代行	L=500m			○		28~							
道路	村道伊折線(杉山沢橋)	長野県	県代行	L=4.4m			○		28~							
地域生活基盤施設	備蓄倉庫	小谷村		一式			○		28~							
農畜産物等加工貯蔵施設	小谷地区	小谷村	農林水産省	一式		○			28~							
合計											412					

都市再生整備計画の区域

オタリ 小谷地区(長野県小谷村)	面積	3200 ha	区域	小谷村全域
---------------------	----	---------	----	-------

